

## 水戸市消費者物価指数の概況

### 消費統計係

#### 〔水戸市消費者物価指数について〕

水戸市消費者物価指数は、水戸市の消費者世帯が購入する各種の商品とサービスの価格を総合した物価の変動を時系列的に測定するもので、基準時は昭和45年1年間とし、ウェイトの算定期間も同じである。

指数計算に採用した品目は、家計支出上重要度の高いものを主として428品目選定した。

なお算式は、基準時加重相対法算式（ラスパイレズ式）を用いた。

#### 〔概況〕

昭和48年平均の水戸市消費者物価指数は、昭和45年を100とした総合指数で124.2となり前年に比べ12.2%の上昇となった。最近の対前年比をみると43年が6.5%、44年6.4%、45年7.9%、46年6.9%、47年3.6%となっており、48年の12.2%という対前年比はこれらに比べ極めて高く、また、48年の全国平均11.7%をも上回る高い上昇率となった。

この上昇は、被服22.3%、食料13.2%、雑費9.3%、住居7.7%、光熱2.8%とそれぞれ上昇したことによるが、なかでも被服の上昇率が目立って大きい。

#### 〔費目別にみると〕

費目別にその動きをみてみると、まず被服指数は142.8となり、その対前年比22.3%は47年の対前年比7.0%を大きく上回っている。内訳は、毛糸・生地、セーターなどの衣料が23.9%と大幅に上昇し、また履物類・ネクタイなどの身の回り品も17.8%と大幅な上昇を示した。

食料指数は123.1となり、その対前年比13.2%は47年の対前年比1.6%を大きく上回っている。内訳は、野菜が35.0%、加工食品（豆腐・コンビーフなど）が18.0%、外食（すし・中華そばなど）が17.3%、菓子が16.2%といずれも大幅に上昇を示したほか、塩干魚介（塩さけ・たらこなど）が15.4%上昇し、調味料（13.7%）、肉類（12.1%）、乳卵（11.1%）もかなりの上昇を示した。

雑費指数は121.2となり、その対前年比9.3%もかなり大きな上昇率である。これは、理容衛生（入浴料・ちり紙など）が12.5%、教養娯楽（グローブ・月謝など）、交通通信（タクシー代など）が共に12.2%、教育（私立中学授業料など）が9.9%と上昇したためである。

住居指数は120.1となり、その対前年比は47年の4.8%を上回る7.7%という上昇率を示したが、これは、設備

修繕（角材・水道工事費など）が17.7%と大幅に上昇したことが主因となっている。

光熱指数は108.5となったが、これは灯油などのその他の光熱が7.4%上昇したことが主因となっている。

#### 〔年間の動き〕

48年1年間の消費者物価指数の動きを月別にみると、1月から5月までの総合指数の対前月比はそれぞれ、1.9%、1.2%、2.3%、2.4%、1.6%と高い上昇率を示した。これは主として野菜・果物・肉類などを中心とした値上がりとし、綿の値上がりによる衣料の値上げによるものであった。またこの間、革製品の値上がりも目についた。6～8月は比較的上昇率の小さい時期となり、上昇率はそれぞれ0.6%、1.0%、0.8%であったが、9月にはいって夏場の干ばつの影響を受けた野菜が30.3%と高騰、そのほか果物・乳卵なども値上がりして食料が前月に比べ5.0%上昇したことと、秋・冬物衣料が高値で出回ったことなどにより被服も前月に比べ8.9%上昇したことが主因となって、総合指数は3.6%と大幅な上昇率を示した。10月には0.7%と上昇率は少し下落したが、11月にはいるといわゆる石油危機による灯油・プロパンガスなどの値上がりがあり、対前月比は1.2%と上昇、また12月には灯油・木炭・石炭・れん炭などのその他の光熱が9.5%と大幅に上昇し、さらには家具什器・設備修繕・被服・食料など全般的に大きな値上がりが見られ、総合指数は対前月比3.1%という大幅な上昇を示すに至った。

#### 水戸市消費者物価指数月別の推移（総合）

（昭和45年=100）

